様式1

大学等名	西九州大学
プログラム名	データサイエンスの理解

プログラムを構成する授業科目について

① 対象となる学部・学科名称　　② 教育プログラムの修了要件　学部・学科によって、修了要件は相違しない

③ 修了要件

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を西九州大学では「データサイエンスの理解」という名称で表し、講義科目である「データサイエンス入門」（2単位）と演習科目である「データサイエンス演習」（1単位）の2科目で構成している。「データサイエンス入門」は、全学の1年次学生を対象に春学期に遠隔授業で実施し、講義の各回に行う小テストと定期試験の成績の合計が60点以上であれば合格とする。「データサイエンス演習」は、学科単位で担当教員を決めて小グループ演習形式で実施し、所定の目標を達成できれば合格とする。2科目合わせて3単位を取得することによって修了としている。

必要最低単位数　3　単位　　履修必須の有無　令和4年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						
データサイエンス演習	1	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス入門	その他		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・データ駆動型社会、Society 5.0、第 4 次産業革命等とその基礎にあるデータサイエンス・AI開発の意義について、そうした社会変化がこれからの生活や仕事にどのような影響をもたらすか「データサイエンス入門」（1回目）
	1-6	・AI等の利活用が、さまざまな産業分野で発展していることを具体的に講義「データサイエンス入門」（14回目） ・教師あり学習、教師なし学習、強化学習、クラスタリング、深層学習など「データサイエンス入門」（15回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・ビッグデータ、オープンデータ、データの種類（数値データ、テキストデータ、画像/動画データ、音声/音楽など）、データマイニング「データサイエンス入門」（1回目、3回目）
	1-3	・AI開発の歴史、機械学習、深層学習、データ・AI活用領域の広がり(識別系AI、予測系AI、会話系AI、実行系AI)、AIが出来ること・得意なこととAIの限界「データサイエンス入門」（1回目、2回目、4回目、13～14回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ、データ解析：予測、パターン発見、最適化、教師あり学習、教師なし学習、強化学習、クラスタリング、深層学習など「データサイエンス入門」（2回目、15回目）
	1-5	・佐賀県の2つのIT関連企業（木村情報技術株式会社、オプティム・バンクテクノロジーズ株式会社）から、現場で開発されているAI技術についての講義「データサイエンス入門」（4回目、13回目） ・販売業、製造業、自動運転、医療分野、介護・看護分野、物流、水産・農業、金融・保険、教育、芸術などのさまざまな分野におけるAI活用事例を紹介「データサイエンス入門」（14回目）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ・AI活用における負の事例紹介.。データを扱う際にしてはいけないこと、ねつ造、改ざん、盗用。プライバシー保護の重要性。個人情報保護法、プライバシー保護と個人データの流通に関するOECD8原則、事業者が守るべきルール、安全に管理するためのルール「データサイエンス入門」(11回目、12回目)
	3-2	・データを安全に管理するためのルール。情報セキュリティ 「データサイエンス入門」(11回目、12回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき(分散、標準偏差)、母集団と標本抽出(全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「データサイエンス入門」(5回目、6回目)
	2-2	・データ表現、グラフ化の方法(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、チャート化、層別の必要なデータ、相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)、データに騙されない「データサイエンス入門」(7回目、8回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)、データの図表表現(チャート化)「データサイエンス演習(健康栄養学科)」(11回目、12回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)、データの図表表現「データサイエンス演習(社会福祉学科)」(7回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)、データの図表表現(チャート化)、優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) 「データサイエンス演習(スポーツ健康福祉学科)」(5回目～7回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)、不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)、優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データサイエンス演習(リハビリテーション学科)」(10回目～12回目) ・Excelによるデータの可視化(グラフ作成)、データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)、不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)、優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データサイエンス演習(子ども学科)」(8回目、9回目、14回目、15回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「データサイエンス演習(心理カウンセリング学科)」(6回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)、データの図表表現(チャート化)、データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「データサイエンス演習(看護学科)」(10回目)
	2-3	・ネットから気象庁が公開している気象情報をダウンロードさせ、表計算ソフト(スプレッドシート)を用いて、表の整形、レコードの抽出、並び替え、集計を実際に行わせる「データサイエンス入門」(9回目、10回目) ・データの集計(和、平均)、データ解析ツール(スプレッドシート)、表形式のデータ(csv)「データサイエンス演習(健康栄養学科)」(第7回～12回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)、データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング「データサイエンス演習(社会福祉学科)」(5回目、6回目) ・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング「データサイエンス演習(スポーツ健康福祉学科)」(2回目、3回目) ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス演習(リハビリテーション学科)」(12回目) ・Excelによるデータの可視化(グラフ作成)、官公庁等の実データ、実課題の取り組みについて、データの並び替え、ランキング「データサイエンス演習(子ども学科)」(8回目、9回目、13回目) ・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング「データサイエンス演習(心理カウンセリング学科)」(4回目) ・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール(スプレッドシート)「データサイエンス演習(看護学科)」(8回目、9回目、11回目、12回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

●データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解する。「数理/データサイエンス/AI」が、今後の社会における「読み/書き/そろばん」であることを理解する。今のAIで出来ること、出来ないことを理解する。AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解する。●データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを理解できる。データの発生現場を確認することの重要性を理解する。データの比較対象を正しく設定し、数字を比べることができる。適切な可視化手法を選択し、他者にデータを説明できる。文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することができる。表計算ソフト(スプレッドシート)等を使って、小規模データを集計・加工ができる。●個人情報保護法など、データを取り巻く国際的な動きを理解する。データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。

様式2

大学等名 西九州大学

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数				
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性		
健康栄養学部	374	120	480	98			91			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			98	20%
健康福祉学部	363	130	540	86			83			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			86	16%
リハビリテーション学部	247	80	320	59			56			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			59	18%
子ども学部	548	120	500	125			124			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			125	25%
看護学部	385	90	360	108			107			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			108	30%
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
合　計	1,917	540	2,200	476	0	0	461	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	476	22%

様式3

大学等名 西九州大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 （常勤） 115 人 （非常勤） 220 人

② プログラムの授業を教えている教員数 74 人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名） 橋本健夫 （役職名） 副学長

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会、西九州大学教務委員会

（責任者名） 大田尾　浩 （役職名） 教務部副部長（大学担当）

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会要項、西九州大学教務委員会規程

⑥ 体制の目的

数理・データサイエンス・AI教育プログラムを全学的に普及させるために、授業内容の検討を行い、受講学生の成績評価の方法、および授業プログラムの改善について継続的に検討することを目的に、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会」を設置している。また、「西九州大学教務委員会」において、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを本学の教育全体の中に位置づけ、他の授業との調整や各学科における推進を図っている。

⑦ 具体的な構成員

●数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会
部会長　大田尾浩教授（教務部副部長）／健康栄養学科　古賀浩二教授、横尾美智代教授、安部恵代教授／社会福祉学科　黒田研二教授、占部尊士准教授／スポーツ健康福祉学科　甲木秀典講師／リハビリテーション学科　宮原洋八教授　小松洋平准教授／子ども学科　松本大輔准教授／心理カウンセリング学科　赤川力准教授／看護学科　大塚和良講師

●西九州大学教務委員会
副学長　橋本健夫教授（委員長）、管原正志教授／教務部副部長　大田尾浩教授／健康栄養学科　古賀浩二教授、堀田徳子教授、園部ニコル講師／社会福祉学科　井本浩之教授、加藤稔子准教授／スポーツ健康福祉学科　山田力也教授、甲木秀典講師、山口裕嗣講師／リハビリテーション学科　松谷信也准教授、八谷瑞紀准教授／子ども学科　田中麻里教授、久野隆裕准教授、飯盛啓生准教授／心理カウンセリング学科　西村喜文教授、利光恵准教授、赤川力准教授／看護学科　馬場才悟教授、小林幸恵教授、池田佐知子准教授／事務局長　上野恒信

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	22%	令和5年度予定	43%	令和6年度予定	67%
令和7年度予定	92%	令和8年度予定	95%	収容定員（名）	2,200

具体的な計画
リテラシーレベルのデータサイエンスを教授する科目として「データサイエンス入門」（講義科目2単位）と「データサイエンス演習」（演習科目１単位）を開設しており、これらの科目をあわせて「データサイエンスの理解」という名称で括り、１年次に学ぶ必修科目としている。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部・学科に関係なく1年次生は、共通教育科目である「データサイエンスの理解（「デーサイエンス入門」「データサイエンス演習」）を必修科目として受講する体制をとっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学時のオリエンテーション時に、「データサイエンスの理解」テキストを配布し、受講の説明を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムは、全学共通開講の必修科目としている。科目担当教員と各学科の担任とが連携を密にし、講義毎に学習状況を把握して、個々の学生をサポートする体制がとられている。また、「データサイエンス入門」は、PC必携化としているため、Microsoft Teamsによる遠隔授業により受講しやすい環境を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

講義科目である「データサイエンス入門」は、Microsoft Teamsを用いたオンラインの遠隔授業として実施しており、授業の中で学生からの質問を受けるようにしている。また、Teamsのチャット機能を通じて、時間外でも質問に回答している。演習科目である「データサイエンス演習」は、学科単位で担当教員を選任し、学生を小グループに分け、スケジュール管理、成績評価を行っている。演習を通じて、随時学生からの質問への説明や学習指導を行っている。

様式4

大学等名 西九州大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

西九州大学教務委員会、数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会

（責任者名）橋本　健夫　（役職名）副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	「データサイエンスの理解」科目群は、令和3年度に開設し、5学科（健康栄養学科、社会福祉学科、スポーツ健康福祉学科、子ども学科、心理カウンセリング学科）の1年生321名が受講し、303名が修了した（修了率94.5%）。令和4年度からは、リハビリテーション学科と看護学科においても開設され、全7学科の必修科目となり、476名が履修し461名が修了（修了率96.8%）した。 教務委員会および数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会で検討した結果、さらに修了率を改善するために講義毎に課題の提出状況を確認し、各学科の担当教員から学生に指導をしている。
学修成果	「データサイエンスの理解」は、全7学科において、1年次学生が履修し、所定の学習成果を修めて履修を修了した。学生のアンケート結果から、72.5%の学生がデータサイエンスに興味を持つことができたとの回答を得た。教育内容を充実させるために、教務委員会および数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会において「授業評価の結果」を活用し、本教育プログラムの評価・改善を図っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	R4年度の授業終了後に「データサイエンスの理解」の受講生に無記名式のアンケート調査を実施した（回答364名／476名、回収率76.5%）。 その結果、92.3%の学生が真面目に受講していた。また、78.3%の学生が講義内容を理解できたと回答した。一方で、少数ではあるが8.5%の学生が理解できなかったとの回答もあったことから、引き続き教務委員会および数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会において教育内容を検討していく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生アンケートの結果では、73.1%の学生が「データサイエンスの理解」の受講を後輩に推奨するとの回答を得た。概ね、受講した学生はデータサイエンスを学修することの意義を見いだせたと考えるが、一方で少数ではあるが5.2%の学生が推奨しないと回答していた。引き続き、教務委員会およ数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会において教育内容の検討を続けていく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和3年度は西九州大学を構成する7学科のうち、5学科において「データサイエンスの理解」科目群を開設したが、令和4年度以降は全学科において開設した。全学生が必修科目として「データサイエンス入門」と「データサイエンス演習」を履修している。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	「データサイエンスの理解」を履修して卒業した学生はまだおらず、当該視点からの評価は将来の課題とする。西九州大学と協定を結ぶ株式会社ミズからの評価では「官公庁のデータを解釈する実践的な取り組みは、一般企業において求められる重要スキルであり、データを正しく理解し活用する能力を育んで欲しい」との意見を得ている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	佐賀市に本社が所在する木村情報技術株式会社およびオプティム・バンクテクノロジーズ株式会社（いずれもICT・AIの開発を事業としている）と西九州大学は、データサイエンス教育を進めるための交流協定を締結し、非常勤講師として「データサイエンス入門」の授業等にも参画してもらっている。これらの産業界の意見も取り入れて、今後、「データサイエンスの理解」プログラムの改善を図っていく。また、健康医療分野で事業を展開する株式会社ミズから「データサイエンスの理解」において、データを正しく理解し活用する能力を育むことに加えて、官公庁のデータを用いた広い視点と、地元佐賀を意識した地域の視点を持てる教育プログラムを展開すると、より有益であろう」とのコメントいただいた。数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会において、企業からの意見を活用し、本教育プログラムの充実を図っていく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「データサイエンス入門」では、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」が伝わるようできるだけ分かりやすい授業を心がけている。毎回、講義に関連した内容の小テストを実施し、学生の理解の定着を図っている。「データサイエンス演習」では、学生自身が調べ学習を通じて調べてきたことを、演習グループ内で発表しあうという方法を取り入れている。また、学生へのアンケート結果から、88.5%の学生がデータサイエンスを学ぶ必要性を理解できたと回答しており、多くの学生に学ぶことの意義が伝わる講義が展開できたと思われる。各学科の専門分野を意識した演習、グループワークを通じて協力し合って課題を解決する、成果を共有する報告会開催など、多様な方法で実践的な学びができるよう、引き続き数理データサイエンスAI教育プログラム検討部会において検討を重ねていく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	「データサイエンス入門」では、毎回、講義に関連した内容の小テストを実施し、学生の理解の定着を図っている。小テストは、Microsoft Formsを用いて出題し採点をしている。その方法は来年度以降も継続する予定である。「データサイエンス演習」では、学生自身が調べ学習を通じて演習グループ内で発表しあうという方法を取り入れているが、今後もこうしたアクティブラーニングの手法を積極的に活用していく。また、学生アンケートの結果から、73.7%の学生が分かりやすい講義であったと評価しており、79.6%の学生が講義に満足したと回答している。一方で、少数ではあるが9.9%の学生が分からなかった、6.6%の学生が満足できなかったと回答している。引き続き、教務委員会および数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会において教育内容と方法について検討を続けていく。

科目名	データサイエンス入門	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CE_D1_01	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ	
担当者	黒田　研二・横尾　美智代・古賀　浩二・安部　恵代・宮原　洋八・小松　洋平・新井　康平・友廣　一雄・木村　隆夫				

開講年次	1	開講期	前期	単位数	2	必修･選択	必修
開講学科	全学科	分類	共通教育科目　必修科目				

授業の概要及びねらい	●現代社会で急速に進んでいるデジタル・トランスフォーメーションについての理解をもち、データ・AIの利活用が具体的にどのように発展してきているかを知る。●正しくデータを読み取る力とそのために必要な統計学の基礎的概念を理解する●表計算ソフトを用いて簡単なデータの集計や加工の方法を知る。●データ・AI利活用における留意事項と、データに関連する法律・規則を知る。●AIができることと、人でなければできないことを理解し、人としての能力開発を自ら自主的に行う態度を身に着ける。
実務経験に関連する授業内容	専任教員6名と学外講師2名、特任教授で担当します。専任教員はいずれも公衆衛生学、保健統計学、情報科学等の領域を専門としています。
授業の到達目標	●データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解する。「数理/データサイエンス/AI」が、今後の社会における「読み/書き/そろばん」であることを理解する。今のAIで出来ること、出来ないことを理解する。AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解する. ●データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを理解できる。データの発生現場を確認することの重要性を理解する。データの比較対象を正しく設定し、数字を比べることができる。適切な可視化手法を選択し、他者にデータを説明できる。文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することができる。表計算ソフト(スプレッドシート)等を使って、小規模データを集計・加工ができる. ●個人情報保護法など、データを取り巻く国際的な動きを理解する。データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。
学習方法	15回の講義を6名の専任教員と学外講師、特任教授が分担して、遠隔授業で担当します。学生は事前にテキストの該当箇所をよく読んで予習をしておいてください。授業のなかで質問や小テストに答えてもらいます。それも成績評価に組み入れます。また授業参加の確認も行います。必須科目ですので、合格することが卒業の要件になります。しっかり取り組んでください。
テキスト及び参考書等	テキスト（講義資料）を配布します。テキストに参考図書を示しますので、自ら積極的に調べて学修してください。

	到達目標																								
	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率		20			20			20			20						20								100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験					◎																				50
小テスト等		○			○			○			○						○								50
宿題・授業外レポート																									
授業態度		○			○																				
受講者の発表																									
授業への参加度		○			○																				
その他																									

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第1週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	社会で起きている変化、データサイエンスを学ぶ意義、授業計画の説明（黒田研二）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第2週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データ・AIのさまざまな活用領域（小松洋平）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第3週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	社会で活用されているさまざまなデータ（小松洋平）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第4週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データ・AI利活用の最新動向（友廣一雄）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第5週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データを読む（１）記述統計の基礎的な概念の理解（宮原洋八）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第6週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データを読む（２）変数間の関係（関連や相関）を調べる方法（安部恵代）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第7週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データを説明する（１）グラフによるデータ表現（安部恵代）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第8週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データを説明する（２）統計の読み取りで注意すべきこと（安部恵代）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第9週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データを扱う（１）表計算ソフトの操作（古賀浩二）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第10週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データを扱う（２）リスト（データベース）の集計操作（古賀浩二）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第11週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データ・AIを扱う際の心得　データ・AIを利活用する上で知っておくべきこと（横尾美智代）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第12週	事前学習(予習)	テキストの該当箇所をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データ・AIを扱う際の留意点　データを守る上で知っておくべきこと（横尾美智代）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第13週	事前学習(予習)	事前配布資料をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データ・AI利活用の現場データ・AI利活用のための技術（木村隆夫）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第14週	事前学習(予習)	事前配布資料をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データ・AI利活用の最新動向（新井康平）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第15週	事前学習(予習)	事前配布資料をよく読んで予習をしておくこと
	授業	データ・AI利活用のための技術（新井康平）
	事後学習(復習)	授業を振り返り、学んだことを整理し理解してください。
第16週	事前学習(予習)	
	授業	
	事後学習(復習)	
備　考	・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合があります。 ・１週間あたり3時間の事前・事後学習時間を確保することが原則です。定期 ・授業中に行う質問や小テストへの回答も、授業に対する理解度や参加度をみるために評価対象とします。定期試験の成績と合わせて、総合的に学修の評価を行います。	

※事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習科目は各30分を原則とする。
※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。

科目名	データサイエンス演習	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CE_D2_01	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ	神埼
担当者	四元　博晃・久野　一恵・古賀　浩二・安田　みどり・横尾　美智代・三嶋　敏雄・安部　恵代・林　眞知子・斎木　まど香・福山　隆志・園部　ニコル・緒方　智宏				

開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修･選択	必修
開講学科	健康栄養学科	分類	共通教育科目　必修科目				

授業の概要及びねらい	PCの仕組みを理解し、MS-Word、MS-Excelなどデータ操作に用いる汎用ソフトを使えるようになる。データ操作、データマイニングを行うにあたっての留意点、問題点を理解した上で、利活用できるようになる。
実務経験に関連する授業内容	
授業の到達目標	・オペレーティングシステム（OS）の機能と操作全般を修得する ・MS-Wordの操作に慣れる ・MS-Excelの操作に慣れる ・簡単なデータ検索と活用ができるようになる ・AIやビッグデータで使用されるデータやその活用例を知る ・課題に対して必要なデータを検索、加工し、複数のソフトウェアを用いてレポートを作成する
学習方法	ノートパソコン（各自持参）を用いた演習課題に取り組む。
テキスト及び参考書等	適宜配布する。

	到達目標																								
	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率			20			30			30			20													100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験																									
小テスト等																									
宿題・授業外レポート	○			◎			○			◎															30
授業態度	◎			○			◎			○															20
受講者の発表	○			○			○			○															10
授業への参加度	○			○			○			○															40
その他																									

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第1週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	オペレーティングシステム（OS）の機能と操作全般を修得する
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第2週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	文字入力の機能と操作全般を修得する：キーボード操作、日本語入力の仕組み理解し、操作できる
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第3週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Wordの操作に慣れる（基礎編）；書式設定の範囲と設定内容、ページ設定、段落書式設定、文字列書式設定 ルーラ・インデント・タブ・箇条書きを理解する
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第4週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Wordの操作に慣れる（基礎編）；書式設定の範囲と設定内容、ページ設定、段落書式設定、文字列書式設定 ルーラ・インデント・タブ・箇条書きを理解する
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第5週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Wordの操作に慣れる（応用編）；表及び図形の作成、挿入方法などを理解する
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第6週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Wordの操作に慣れる（応用編）；表及び図形の作成、挿入方法などを理解する
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第7週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Excelの操作に慣れる（基本編）：機能と文書構造(ブック、シート)、データ型 数値と表示形式、数式の詳細(利用可能データ、演算子)を理解する
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第8週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Excelの操作に慣れる（基本編）；関数に慣れる
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第9週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Excelの操作に慣れる（応用編）：罫線描画、セル内配置、行間・列幅調整、行・列の追加・削除ができる
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第10週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Excelの操作に慣れる（応用編）：最大値、最小値、カウント、平均値などの関数、文字列をデータとして扱う関数(A付関数)を表示する方法等が理解できる
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第11週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Excelの操作に慣れる（描画編）：データ特性に応じたグラフの選択と、グラフの書き方、表記（デザイン）ができる
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第12週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	MS-Excelの操作に慣れる（描画編）：データ特性に応じたグラフの選択と、グラフの書き方、表記（デザイン）ができる
	事後学習(復習)	演習内容の実践

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第13週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	データ検索と活用について：データ検索の方法、データ提供サイトの信頼性、有効性、読み取り方の注意、サイト利用上の注意等を理解する
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第14週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	データ検索と活用について：データ検索の方法、データ提供サイトの信頼性、有効性、読み取り方の注意、サイト利用上の注意等を理解する
	事後学習(復習)	演習内容の実践
第15週	事前学習(予習)	配布資料を読んでおく
	授業	まとめ：これまでの演習内容について解説を行い、課題解説を実施。
	事後学習(復習)	課題作成を通して授業全体を確認する
第16週	事前学習(予習)	
	授業	
	事後学習(復習)	
備　考	・対面授業である ・普段使っているノートパソコンを持参すること（機種自由）	

※事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習科目は各30分を原則とする。
※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。

科目名	データサイエンス演習	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CE_D2_01	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ	神埼
担当者	井本　浩之・占部　尊士				

開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修･選択	必修
開講学科	社会福祉学科	分類	共通教育科目　必修科目				

授業の概要及びねらい	PCの操作になれて、MS-Word、 Excel、PowerPointを使えるようになる。Excelで表の作成、データの並び替え、グラフの作成、簡単な計算ができるようになる。AIが様々な分野で活用されており、自らの生活にも深く関与していることを、アクティブラーニングにより学生が事例として調べて発表しあう。AIの活用にあたっては人間中心の判断が重要であることや、公正性、プライバシー保護、セキュリティに関する課題があることを学生が具体的事例を調べて発表しあう。自分でテーマを決めて、統計を用いたデータを収集し、図表化、そこからわかる事柄の記述と考察を行い、発表しあう。SDGｓ関連の理解を深める。
実務経験に関連する授業内容	
授業の到達目標	1.PCの操作になれ、MS-Wordを用いて簡単な文書の作成ができるようになる。 2.Excelを用いて表の作成、データの並び替えができるようになる。 3.Excelを用いてグラフの作成、簡単な計算ができるようになる。 4.デジタル化、AIが、自分たちの生活に密接に結びついていることを、具体的な事例をあげて述べることができる。 5.デジタル化、AIの普及にともなって生じているさまざまな問題、社会的課題について、具体的事例をあげて述べることができる。 6.統計に基づく何らかの実データを見つけ、統計が日常生活の課題解明、社会の理解に必要であることを、実データをもとに述べることができる。 7.発表内容をPowerPointに表現し、プレゼンテーションを行うことができる。
学習方法	前半は、ソフトウェア操作の学習を行う。後半は、３つの課題（①デジタル化、AI活用の具体的な事例、②デジタル化、AI普及に伴って生じている問題や社会的課題について具体的事例や対応、③統計に基づく実データの事例報告）について、学生が調べてきて発表しあい議論する形式で進める。インターネット検索、新聞報道検索、図書や文献検索などによって調べる。
テキスト及び参考書等	「データサイエンスの理解」テキスト

	到達目標																								
	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率			25			25			25			25													100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験																									
小テスト等																									
宿題・授業外レポート	○			○			○			○															30
授業態度	○			○			○			○															30
受講者の発表	○			○			○			○															20
授業への参加度	○			○			○			○															20
その他																									

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第1週	事前学習(予習)	事前学習(予習)『データサイエンスの理解」テキストp.4～6を確認する。
	授業	授業内容についてのオリエンテーション
	事後学習(復習)	達成目標、演習の流れを確認する
第2週	事前学習(予習)	各自PCの基本的操作を確認する。
	授業	コンピュータ操作、データサイエンスのためのソフトウェア基礎について
	事後学習(復習)	データサイエンスのためのソフトウェアの確認をする。
第3週	事前学習(予習)	各自PCでMS-Wordを起動させ、インターネット検索等を参考に使用してみる。
	授業	MS-Wordによる簡単な文書作成について
	事後学習(復習)	授業で学んだ操作方法等を復習する。
第4週	事前学習(予習)	インターネット検索等で表作成の操作方法を確認する。
	授業	MS-Wordによるビジネスレター作成、表の作成と編集について
	事後学習(復習)	授業で学んだ操作方法等を復習する。
第5週	事前学習(予習)	インターネット検索等でExcelソフトウェアの操作方法を確認する。
	授業	Excel表計算ソフトウェアの基本構造と基本機能について
	事後学習(復習)	授業で学んだExcelソフトウェアの機能や操作方法を復習する。
第6週	事前学習(予習)	インターネット検索等でExcelソフトウェアによる表作成を確認する。
	授業	Excelのキーボード、マウス操作と表作成
	事後学習(復習)	授業で学んだExcelソフトウェアによる表作成を復習する。
第7週	事前学習(予習)	インターネット検索等で各種グラフを確認する。
	授業	グラフの種類とグラフデータについて
	事後学習(復習)	授業で学んだ各種グラフとグラフデータについて復習する。
第8週	事前学習(予習)	前回の授業内容の確認と複合グラフについてインターネット等で調べてみる。
	授業	Excelデータの可視化：複合グラフ、2軸グラフ　表と複合グラフを作成する
	事後学習(復習)	授業で学んだ複合グラフについて復習する。
第9週	事前学習(予習)	デジタル化、AIについて具体的事例について調べてみる。
	授業	デジタル化、AIが、自分たちの生活に密接に結びついていることを具体的な事例をあげて考える。
	事後学習(復習)	授業内で紹介された具体的事例の確認をする。
第10週	事前学習(予習)	具体的事例をさらに調べてみる。
	授業	事例の発表準備
	事後学習(復習)	事例発表の準備をする。
第11週	事前学習(予習)	事例発表の準備をする。
	授業	事例発表
	事後学習(復習)	他の事例発表内容の確認をする。
第12週	事前学習(予習)	授業内容の確認と準備をする。
	授業	デジタル化、AIの活用による諸問題、弊害について
	事後学習(復習)	授業内容の確認、復習をする。

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第13週	事前学習(予習)	自治体や公共団体のデータを事前に調べておく。
	授業	自治体や公共団体のデータを加工などをし、その結果を他者に共有伝達するために、Power Pointを作成する。
	事後学習(復習)	自治体や公共団体のデータから見えてくる実課題について検討する。
第14週	事前学習(予習)	Power Pointを活用したプレゼンテーションの準備をする。
	授業	実データに基づく実課題への取り組みを紹介するため、ゼミ単位でのプレゼンテーションを行う。
	事後学習(復習)	プレゼンテーションの内容についてのリフレクション。
第15週	事前学習(予習)	Power Pointを活用したプレゼンテーションの準備をする。
	授業	実データに基づく実課題への取り組みについて協議するため、全体でプレゼンテーションを行う。
	事後学習(復習)	各発表のまとめをする。
第16週	事前学習(予習)	
	授業	
	事後学習(復習)	
備　考	・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合があります。 ・ディスカッションやプレゼンテーションを重視します。積極的に取り組んで下さい。 ・１週間あたり3時間の事前・事後学習時間を確保すること。 ・最終週にプレゼンテーションの講評の時間を設けます。	

※事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習科目は各30分を原則とする。
※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。

科目名	データサイエンス演習	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CE_D2_01	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ	神埼
担当者	山田　力也・近藤　芳昭・甲木　秀典・山口　裕嗣				

開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修･選択	必修
開講学科	スポーツ健康福祉学科	分類	共通教育科目　必修科目				

授業の概要及びねらい	PCの操作になれて、MS-Wordで文書作成ができ、 Excelにより表の作成、データの並び替え、グラフの作成、簡単な計算ができるようになる。これらを活用して後半では、数字でスポーツを考え、探究できるようにスポーツ関連のデータを基に、例題、問題に取り組む。さらに、AIが様々な分野で活用されている中で、自らの生活にも深く関与していることを事例として調べ、統計手法を用いて図表化し、そこからわかる事柄の記述と考察を行う。
実務経験に関連する授業内容	
授業の到達目標	1.PCの操作になれ、MS-Wordを用いて簡単な文書の作成ができるようになる。 2.Excelを用いて表の作成、データの並び替えができるようになる。 3.Excelを用いてグラフの作成、簡単な計算ができるようになる。 4.スポーツ関連のデータを基にした例題や問題に取り組む。 5.デジタル化、AIが、自分たちの生活に密接に結びついていることを、具体的な事例をあげて述べることができる。 6.生活に深く関与している事例を調べ、統計手法を用いて図表化できる。 7.日常生活の課題解明、社会の理解に統計手法を用いて考察できる。
学習方法	前半はのソフトウェア操作の学習をPCを使用しながら学習する。後半は、テキストを用いてスポーツ関連のデータを基に、例題、問題に取り組む。
テキスト及び参考書等	「データサイエンスの理解」テキスト、「運動部学生のためのスポーツ探究数学入門」

	到達目標																								
	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率			25			25			25			25													100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験																									
小テスト等	○			◎			○			○															20
宿題・授業外レポート	○			◎			○			◎															30
授業態度	◎			○			○			○															30
受講者の発表																									
授業への参加度	○			○			○			◎															20
その他																									

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第1週	事前学習(予習)	「データサイエンスの理解」テキストp.4～6を確認する。
	授業	授業内容についてのオリエンテーション
	事後学習(復習)	達成目標、演習の流れを確認する。
第2週	事前学習(予習)	各自PCの基本的操作を確認する。
	授業	コンピュータ操作、データサイエンスのためのソフトウェア基礎について
	事後学習(復習)	データサイエンスのためのソフトウェアの確認する。
第3週	事前学習(予習)	各自PCでMS-Wordを起動させ、インターネット検索等を参考に使用してみる。
	授業	MS-Wordによる簡単な文書作成について
	事後学習(復習)	授業で学んだ操作方法等を復習する。
第4週	事前学習(予習)	インターネット検索等で表作成の操作方法を確認する。
	授業	MS-Wordによるビジネスレター作成、表の作成と編集について
	事後学習(復習)	授業で学んだ操作方法等を復習する。
第5週	事前学習(予習)	インターネット検索等でExcelソフトウェアの操作方法を確認する。
	授業	Excel表計算ソフトウェアの基本構造と基本機能について
	事後学習(復習)	授業で学んだExcelソフトウェアの機能や操作方法を復習する。
第6週	事前学習(予習)	インターネット検索等でExcelソフトウェアによる表作成を確認する。
	授業	Excelのキーボード、マウス操作と表作成
	事後学習(復習)	授業で学んだExcelソフトウェアによる表作成を復習する。
第7週	事前学習(予習)	インターネット検索等で各種グラフを確認する。
	授業	グラフの種類とグラフデータについて
	事後学習(復習)	授業で学んだ各種グラフとグラフデータについて復習する。
第8週	事前学習(予習)	前回の授業内容の確認と複合グラフについてインターネット等で調べてみる。
	授業	Excelデータの可視化：複合グラフ、2軸グラフ　表と複合グラフを作成する
	事後学習(復習)	授業で学んだ複合グラフについて復習する。
第9週	事前学習(予習)	デジタル化、AIについて具体的事例について調べてみる。
	授業	デジタル化、AIが、自分たちの生活に密接に結びついていることを具体的な事例をあげて考える。
	事後学習(復習)	授業内で紹介された具体的事例の確認をする。
第10週	事前学習(予習)	テキスト内容の確認
	授業	数学でスポーツを考える①
	事後学習(復習)	例題および課題の整理
第11週	事前学習(予習)	テキスト内容の確認
	授業	数学でスポーツを考える②
	事後学習(復習)	例題および課題の整理
第12週	事前学習(予習)	テキスト内容の確認
	授業	数学でスポーツを考える③
	事後学習(復習)	例題および課題の整理

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第13週	事前学習(予習)	テキスト内容の確認
	授業	数学でスポーツを考える④
	事後学習(復習)	例題および課題の整理
第14週	事前学習(予習)	テキスト内容の確認
	授業	数学でスポーツを考える⑤
	事後学習(復習)	例題および課題の整理
第15週	事前学習(予習)	テキスト内容の確認
	授業	数学でスポーツを考える⑥、まとめ
	事後学習(復習)	例題および課題の整理
第16週	事前学習(予習)	
	授業	
	事後学習(復習)	
備　考	・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合があります。 ・１週間あたり3時間の事前・事後学習時間を確保すること。 ・後半の課題の提出期限を守ること。	

※事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習科目は各30分を原則とする。
※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。

科目名	データサイエンス演習	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CE_D2_01	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ	神埼
担当者	大田尾　浩・宮原　洋八・大川　裕行・宮本　明・久保　温子・八谷　瑞紀・中村　雅俊・岸川　由紀・坂本　飛鳥・小松　洋平・小浦　誠吾・原口　健三・押川　武志・松谷　信也・藤原　和彦・仙波　梨沙・植田　友貴・松尾　萌美				

開講年次	1	開講期	通年	単位数	1	必修･選択	必修
開講学科	リハビリテーション学科	分類	共通教育科目　必修科目				

授業の概要及びねらい	メールの送信・レポート作成やデータの集計・分析、課題発表など、学生生活に欠かせないMicrosoft Office （Word、Excel、PowerPoint）のリテラシーを習得する。
実務経験に関連する授業内容	
授業の到達目標	1)Wordの各種機能を用いて、見やすい書類を作成することができる。 2)Power Pointを用いて、見やすいスライドを作成することができる。 3)Excelのデータベース機能を利用して、簡単なデータ分析をすることができる。 4)Excelの表計算機能を用いて、見やすい表を作成することができる。 5)Excelで作成した表を元に、適切なグラフを作成することができる。 6)課題に対して必要な公的機関のオープンデータを検索、加工し、複数のソフトウェアを用いてレポートを作成することができる。
学習方法	講義を行い、その後実際に各自が持参したパソコンを使用しながら演習を行います。 毎回、フル充電の状態で持参してください。
テキスト及び参考書等	テキスト：情報リテラシー　アプリ編、FOM出版 参考書籍：30時間でマスターWord&Excel2019、実教出版 30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2019、実教出版

	到達目標																								
	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率		10			30									10			30			10			10		100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験		◎			◎												◎								90
小テスト等																									
宿題・授業外レポート																									
授業態度																									
受講者の発表		○			○									○			○			◎			○		10
授業への参加度																									
その他																									

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第1週	事前学習(予習)	シラバスを事前に読んでおく
	授業	講義ガイダンス／講義の進め方や履修上の注意，、情報モラルと情報セキュリティ①
	事後学習(復習)	学生生活や医療従事者を目指すにあたっての情報モラルと情報セキュリティを再確認しておく
第2週	事前学習(予習)	シラバスを事前に読んでおく
	授業	基本的なPC操作の確認，、情報モラルと情報セキュリティ②
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第3週	事前学習(予習)	シラバスを事前に読んでおく
	授業	メールソフトの使い方とメールの作法
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第4週	事前学習(予習)	シラバスを事前に読んでお
	授業	TEAMSの使い方
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第5週	事前学習(予習)	テキストW-1からW-36を事前に読んでおく
	授業	Wordの活用（1）／文書作成の基本、画像の挿入、表の作成、図の貼り付け
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第6週	事前学習(予習)	テキストW-37からW-64を事前に事前に読んでおく
	授業	Wordの活用（2）／表現力をアップする機能、罫線、ワードアート、タブとリーダー
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第7週	事前学習(予習)	これまでの講義・演習内容を復習しておく
	授業	臨床実習で用いる自己プロフィールをWordの活用して作成する
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第8週	事前学習(予習)	テキストE-1からE-23を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（1）／Excelの構成要素、データの種類、セルの書式、表の作成と編集
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第9週	事前学習(予習)	テキストE-1からE-23を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（2）／佐賀県の人口動態グラフを総務省のオープンデータを用いて作成する
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第10週	事前学習(予習)	テキストE-24からE-54を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（3）／北部九州の人口動態を総務省のオープンデータを用いてグラフの作成し比較する
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第11週	事前学習(予習)	テキストE-55からE-79を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（4）／学生の体力測定のデータより，グラフを作成する①
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第12週	事前学習(予習)	テキストE-80からE-104を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（5）／学生の体力測定のデータより，グラフを作成する②
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第13週	事前学習(予習)	これまでの講義・演習内容を復習しておく
	授業	医療とDX化について調べる
	事後学習(復習)	上記を作成すること
第14週	事前学習(予習)	これまでの講義・演習内容を復習しておく
	授業	医療とDX化についてをパワーポイントでプレゼンテーションする
	事後学習(復習)	他者の発表を聞いての気づきをまとめる
第15週	事前学習(予習)	あすなろ体験での学ぶをまとめる
	授業	ボランティアの体験をパワーポイントでまとめプレゼンテーションする
	事後学習(復習)	他者の発表を聞いての気づきをまとめる
第16週	事前学習(予習)	
	授業	
	事後学習(復習)	
備　考	・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合があります。 ・次回の授業内容の項目について、教科書に目を通しておくこと。授業後は資料に目を通すとともに小課題にも着実に取り組み、学習内容の定着を図ること。大学生活においてIT機器を積極的に活用し使いこなすよう心掛けてください。 ・演習課題は確認したうえで、次回の講義時にフィードバックを行います。	

※事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習科目は各30分を原則とする。
※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。

科目名	データサイエンス演習	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CE_D2_01	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ	佐賀
担当者	田中　麻里・櫻井　琴音・松井　克行・上野　景三・櫻井　京子・松本　大輔・草場　聡宏・飯盛　啓生・久野　隆裕・新井　馨・横田　聡・中村　理美・宇賀神　一				

開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修･選択	必修
開講学科	子ども学科	分類	共通教育科目　必修科目				

授業の概要及びねらい	PCの操作になれて、MS-Word、 Excel、PowerPointを使えるようになる。Excelで、表の作成、データの並び替え、グラフの作成、簡単な計算ができるようになる。AIが様々な分野で活用されており、自らの生活にも深く関与していることを、アクティブラーニングにより学生が事例として調べて発表しあう。AIは万能ではなく、その活用にあたっては人間中心の判断が重要であることや、公正性、プライバシー保護、セキュリティに関する課題があることを学生が具体的事例を調べて発表しあう。自分でテーマを決めて、統計を用いたデータを収集し、図表化、そこからわかる事柄の記述と考察を行い、発表しあう。
実務経験に関連する授業内容	
授業の到達目標	1.PCの操作になれ、MS-Wordを用いて簡単な文書の作成ができるようになる。 2.Excelを用いて表の作成、データの並び替えができるようになる。 3.Excelを用いてグラフの作成、簡単な計算ができるようになる。 4.デジタル化AIが自分たちの生活に密接に結びついていることを、具体的な事例をあげて述べることができる。 5.デジタル化AIの普及にともなって生じているさまざまな問題、社会的課題について、具体的事例をあげて述べることができる。 6.統計に基づく何らかの実データを見つけ、統計が日常生活の課題解明、社会の理解に必要であることを、実データをもとに述べることができる。 7.発表内容をPowerPointに表現し、プレゼンテーションを行うことができる。
学習方法	前半は、ソフトウェア操作の学習を行う。後半は、３つの課題（①デジタル化、AI活用の具体的な事例、②デジタル化、AI普及に伴って生じている問題や社会的課題について具体的事例や対応、③統計に基づく実データの事例報告）について、学生が調べてきて発表しあい議論する形式で進める。インターネット検索、新聞報道検索、図書や文献検索などによって調べる。
テキスト及び参考書等	「データサイエンスの理解」テキスト その他講義内で適宜紹介する。

	到達目標																								
	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率			25			25			25			25													100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験																									
小テスト等																									
宿題・授業外レポート	○			◎			○			◎															30
授業態度	◎			○			◎			○															30
受講者の発表	○			○			○			○															20
授業への参加度	○			○			○			○															20
その他																									

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第1週	事前学習(予習)	シラバス及び「データサイエンスの理解」テキストp.4～6を確認する。
	授業	授業内容についてのオリエンテーション。
	事後学習(復習)	達成目標、演習の流れを確認する。
第2週	事前学習(予習)	各自PCの基本的操作を確認する。
	授業	コンピュータ操作、データサイエンスのためのソフトウェア基礎及びMS-Wordの基礎。
	事後学習(復習)	授業で学んだ操作方法等を復習する。
第3週	事前学習(予習)	MS-Wordの操作について確認する。
	授業	MS-Wordによる文章作成の基礎。
	事後学習(復習)	課題をMS-Wordにて作成する。
第4週	事前学習(予習)	PowerPointの操作について確認する。
	授業	PowerPointnによるスライド作成及びプレゼンテーションの基礎。
	事後学習(復習)	課題をPowerPointにて作成する。
第5週	事前学習(予習)	課題のプレゼンテーションの準備をする。
	授業	PowerPointnによるプレゼンテーション（ゼミ別）。
	事後学習(復習)	プレゼンテーションの振り返りを行う。
第6週	事前学習(予習)	Excelの操作について確認する。
	授業	Excelの基礎。
	事後学習(復習)	授業で学んだ操作方法等を復習する。
第7週	事前学習(予習)	Excelの表の作成に関する操作について確認する。
	授業	Excelによる表の作成。
	事後学習(復習)	授業で学んだ操作方法等を復習する。
第8週	事前学習(予習)	Excelのグラフの作成に関する操作について確認する。
	授業	Excelによるグラフの作成及びExcelの活用
	事後学習(復習)	授業で学んだ操作方法等を復習する。
第9週	事前学習(予習)	デジタル化、AIについて具体的事例について調べてみる。
	授業	デジタル化、AIが、自分たちの生活に密接に結びついていることを具体的な事例をあげて考える（SDGsの視点も含む）（ゼミ別）。
	事後学習(復習)	授業内で紹介された具体的事例の確認をする。
第10週	事前学習(予習)	事例の発表準備をする。
	授業	事例の発表をしその内容について議論する（ゼミ別）。
	事後学習(復習)	発表の振り返りを行う。
第11週	事前学習(予習)	事例の発表準備をする。
	授業	事例の発表をしその内容について議論する（ゼミ別）。
	事後学習(復習)	発表の振り返りを行う。
第12週	事前学習(予習)	授業内容の確認と準備をする。
	授業	デジタル化、AIの活用による諸問題、弊害について議論し考える（ゼミ別）。
	事後学習(復習)	授業内容の確認、復習をする。

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第13週	事前学習(予習)	授業内容の確認と準備をする。
	授業	官公庁等の実データ、実課題の取り組みについて。
	事後学習(復習)	実データ、課題の取り組みをさらに検討する（ゼミ別）。
第14週	事前学習(予習)	授業内容の確認と準備をする。
	授業	実データ、実課題の取り組みとプレゼンテーションの準備をする（ゼミ別）。
	事後学習(復習)	プレゼンテーションの準備をする。
第15週	事前学習(予習)	プレゼンテーションの準備をする。
	授業	プレゼンテーション。
	事後学習(復習)	プレゼンテーションのまとめと本演習の振り返りをする。
第16週	事前学習(予習)	
	授業	
	事後学習(復習)	
備　考	・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合があります。 ・ディスカッションやプレゼンテーションを重視します。積極的に取り組んで下さい。 ・１週間あたり3時間の事前・事後学習時間を確保すること。 ・最終週にプレゼンテーションの講評の時間を設けます。	

※事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習科目は各30分を原則とする。
※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。

科目名	データサイエンス演習	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CE_D2_01	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ	佐賀
担当者	岡嶋　一郎・西村　喜文・太田　秀樹・利光　恵・中園　照美・赤川　力・村岡　淑恵・松本　麻希				

開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修･選択	必修
開講学科	心理カウンセリング学科	分類	共通教育科目　必修科目				

授業の概要及びねらい	PCの操作になれて、MS-Word、 Excel、PowerPointを使えるようになる。Excelで、表の作成、データの並び替え、グラフの作成、簡単な計算ができるようになる。AIが様々な分野で活用されており、自らの生活にも深く関与していることを、アクティブラーニングにより学生が事例として調べて発表しあう。AIは万能ではなく、その活用にあたっては人間中心の判断が重要であることや、公正性、プライバシー保護、セキュリティに関する課題があることを学生が具体的事例を調べて発表しあう。自分でテーマを決めて、統計を用いたデータを収集し、図表化、そこからわかる事柄の記述と考察を行い、発表しあう。
実務経験に関連する授業内容	
授業の到達目標	PCの操作になれ、MS-Wordを用いて簡単な文書の作成ができるようになる。 Excelを用いて表の作成、データの並び替えができるようになる。 Excelを用いてグラフの作成、簡単な計算ができるようになる。 デジタル化、AIが、自分たちの生活に密接に結びついていることを、具体的な事例をあげて述べることができる。 デジタル化、AIの普及にともなって生じているさまざまな問題、社会的課題について、具体的事例をあげて述べることができる。 統計に基づく何らかの実データを見つけ、統計が日常生活の課題解明、社会の理解に必要であることを、実データをもとに述べることができる。 発表内容をPowerPointに表現し、プレゼンテーションを行うことができる。
学習方法	前半はのソフトウェア操作の学習を行う。後半は、３つの課題（①デジタル化、AI活用の具体的な事例、②デジタル化、AI普及に伴って生じている問題や社会的課題について具体的事例や対応、③統計に基づく実データの事例報告）について、学生が調べてきて発表しあい議論する形式で進める。インターネット検索、新聞報道検索、図書や文献検索などによって調べる。
テキスト及び参考書等	

	到達目標																								
	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率			25			25			25			25													100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験																									
小テスト等																									
宿題・授業外レポート	○			◎			○			◎															30
授業態度	◎			○			◎			○															30
受講者の発表	○			○			○			○															20
授業への参加度	○			○			○			○															20
その他																									

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第1週	事前学習(予習)	シラバスを読んでおく
	授業	コンピュータの種類と用途,パソコンハードウェアの構成,パソコンソフトウェア構成を説明することができる
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第2週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	MS-Wordの書式設定、ページ書式設定、文書入力・編集練習、段落書式設定を説明することができる
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第3週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	表の作成と編集、図の作成と利用を説明することができる
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第4週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	表計算ソフトウェアの機能、ワークブックの構成画面構成と機能を説明することができる
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第5週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	エクセルのセル操作（キーボード、マウス等）を説明することができる
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第6週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	グラフの種類とグラフデータを説明することができる
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第7週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	系列と縦軸の繋がり、系列とグラフの繋がり、複合グラフを説明することができる
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第8週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	公官庁等のオープンデータをダウンロードし、それを分析・加工したうえで他者に結果を伝達・共有することができる。
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第9週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	デジタル化、AIと生活について、説明し発表することができる①
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第10週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	デジタル化、AIと生活について、説明し発表することができる②
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第11週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	デジタル化、AIと生活について、説明し発表することができる③
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第12週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	デジタル化、ＡＩの活用における問題、弊害について、説明することができる
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第13週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	統計に基づく何らかの実データ・実課題について、説明し発表することができる①
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第14週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	統計に基づく何らかの実データ・実課題について、説明し発表することができる②
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第15週	事前学習(予習)	配布された講義資料を読んでおく
	授業	統計に基づく何らかの実データ・実課題について、説明し発表することができる③
	事後学習(復習)	講義内容をまとめておく
第16週	事前学習(予習)	
	授業	
	事後学習(復習)	
備　考	・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合があります。 ・ディスカッションやプレゼンテーションを重視します。積極的に取り組んで下さい。 ・１週間あたり3時間の事前・事後学習時間を確保すること。 ・最終週にプレゼンテーションの講評の時間を設けます。	

※事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習科目は各30分を原則とする。
※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。

科目名	データサイエンス演習	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CE_D2_01	開講ｷｬﾝﾊﾟｽ	神埼・佐賀
担当者	葛原　誠太・木室　ゆかり・西尾　美登里・大塚　和良・南里　真美・大坪　奈保・大庭　悠希				

開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修･選択	必修
開講学科	看護学科	分類	共通教育科目　必修科目				

授業の概要及びねらい	レポート作成やデータの集計・分析、課題発表など、学生生活に欠かせないMicrosoft Office （Word、Excel、PowerPoint）のリテラシーを習得する。
実務経験に関連する授業内容	
授業の到達目標	1)Wordの各種機能を用いて、見やすい書類を作成することができる。 2)Power Pointを用いて、見やすいスライドを作成することができる。 3)Excelのデータベース機能を利用して、簡単なデータ分析をすることができる。 4)Excelの表計算機能を用いて、見やすい表を作成することができる。 5)Excelで作成した表を元に、適切なグラフを作成することができる。 6)課題に対して必要なデータを検索、加工し、複数のソフトウェアを用いてレポートを作成することができる。
学習方法	講義を行い、その後実際に各自が持参したパソコンを使用しながら演習を行います。 毎回、フル充電の状態で持参してください。
テキスト及び参考書等	テキスト：情報リテラシー　アプリ編、FOM出版 参考書籍：30時間でマスターWord&Excel2019、実教出版 30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2019、実教出版

	到達目標																								
	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動･経験･創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率			20			30			30			20													100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験																									
小テスト等																									
宿題・授業外レポート	○			◎			○			◎															50
授業態度	◎			○			○			○															20
受講者の発表	○			○			○			○															10
授業への参加度	○			○			○			○															20
その他																									

（表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点）

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第1週	事前学習(予習)	シラバスを事前に読んでおく
	授業	講義ガイダンス／講義の進め方や履修上の注意、情報モラルと情報セキュリティ
	事後学習(復習)	学生生活や医療従事者を目指すにあたっての情報モラルと情報セキュリティを再確認しておく
第2週	事前学習(予習)	テキストW-1からW-36を事前に読んでおく
	授業	Wordの活用（1）／文書作成の基本、画像の挿入、表の作成、図の貼り付け
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第3週	事前学習(予習)	テキストW-37からW-64を事前に事前に読んでおく
	授業	Wordの活用（2）／表現力をアップする機能、罫線、ワードアート、タブとリーダー
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第4週	事前学習(予習)	テキストP-1からP-13を事前に読んでおく
	授業	PowerPointの活用（1）／プレゼンテーション文書作成の基本
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第5週	事前学習(予習)	テキストP-14からP-44を事前に読んでおく
	授業	PowerPointの活用（2）／オブジェクトの扱い、作成、挿入、表示順序、グループ化
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第6週	事前学習(予習)	テキストP-45からP-63を事前に読んでおく
	授業	PowerPointの活用（3）／スライドショーに役立つ機能
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第7週	事前学習(予習)	これまでの講義・演習内容を復習しておく
	授業	総合演習（1）研究レポート、プレゼンテーション資料の作成
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第8週	事前学習(予習)	テキストE-1からE-23を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（1）／Excelの構成要素、データの種類、セルの書式、表の作成と編集
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第9週	事前学習(予習)	テキストE-1からE-23を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（2）／計算式、アドレス参照、アドレスの種類、自動再計算
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第10週	事前学習(予習)	テキストE-24からE-54を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（3）／グラフの作成と編集、グラフの用途と種類、データの追加、印刷
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第11週	事前学習(予習)	テキストE-55からE-79を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（4）／関数の基本と活用（関数の入力方法、カウント、条件の判断）
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第12週	事前学習(予習)	テキストE-80からE-104を事前に読んでおく
	授業	Excelの活用（5）／データベース操作とデータ処理（集計と抽出、ピボットテーブル機能）
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）		
第13週	事前学習(予習)	これまでの講義・演習内容を復習しておく
	授業	総合演習（2）統計データ検索と活用
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第14週	事前学習(予習)	これまでの講義・演習内容を復習しておく
	授業	総合演習（3）統計データ検索と活用
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第15週	事前学習(予習)	第1週～第14週までの内容を復習しておく
	授業	全体のまとめ
	事後学習(復習)	本日の内容を復習しておく
第16週	事前学習(予習)	
	授業	
	事後学習(復習)	
備　考	・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合があります。 ・次回の授業内容の項目について、教科書に目を通しておくこと。授業後は資料に目を通すとともに小課題にも着実に取り組み、学習内容の定着を図ること。大学生活においてIT機器を積極的に活用し使いこなすよう心掛けてください。 ・演習課題は確認したうえで、次回の講義時にフィードバックを行います。	

※事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習科目は各30分を原則とする。
※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。

令和4年度

学生便覧

修学の手引

西九州大学

NISHIKYUSHU UNIVERSITY

履　修　関　係

授業科目・履修方法及び単位認定…… 76
卒業要件…… 76
卒業延期…… 78
学外実習の履修…… 79
履修登録単位数の上限…… 80
履修申告…… 83
試　　験…… 84
単位修得…… 89
ＧＰＡ（Grade Point Average）による成績評価について… 90
欠席・公欠…… 94
卒業研究…… 95
卒　　業…… 101
進級制限について…… 102
転学部・転学科について…… 104
履修科目…… 105
教育課程…… 105
履修科目の確認…… 105
健康栄養学部　健康栄養学科…… 106
学修到達目標と学修成果（健康栄養学科）… 107
科目系統図共通教育科目…… 108
科目系統図健康栄養学科専門教育科目… 110
共通教育科目…… 112
健康栄養学科　専門教育科目…… 113
健康福祉学部　社会福祉学科…… 116
学修到達目標と学修成果（社会福祉学科）… 117
科目系統図共通教育科目…… 118
科目系統図社会福祉学科専門教育科目… 120
共通教育科目…… 122
社会福祉学科　専門教育科目…… 123
健康福祉学部　スポーツ健康福祉学科…… 126
学修到達目標と学修成果（スポーツ健康福祉学科）…… 127
科目系統図共通教育科目…… 128
科目系統図スポーツ健康福祉学科専門教育科目…… 130
共通教育科目…… 132
スポーツ健康福祉学科　専門教育科目… 133
リハビリテーション学部　リハビリテーション学科…… 136
学修到達目標と学修成果（リハビリテーション学科）…… 137
科目系統図共通教育科目…… 138
科目系統図リハビリテーション学科理学療法学専攻専門教育科目…… 140
科目系統図リハビリテーション学科作業療法学専攻専門教育科目…… 141
共通教育科目…… 142
リハビリテーション学科　専門教育科目（理学療法学専攻）…… 143
リハビリテーション学科　専門教育科目（作業療法学専攻）…… 145
子ども学部　子ども学科…… 148
学修到達目標と学修成果（子ども学科）…… 149
科目系統図共通教育科目…… 150
科目系統図子ども学科専門教育科目…… 152
共通教育科目…… 154
子ども学科　専門教育科目…… 155
子ども学部　心理カウンセリング学科…… 158
学修到達目標と学修成果（心理カウンセリング学科）…… 159
科目系統図共通教育科目…… 160
科目系統図心理カウンセリング学科専門教育科目…… 162
共通教育科目…… 164
心理カウンセリング学科　専門教育科目… 165
看護学部　看護学科…… 168
学修到達目標と学修成果（看護学科）…… 169
科目系統図共通教育科目…… 170
科目系統図看護学科専門教育科目…… 172
共通教育科目…… 174
看護学科　専門教育科目…… 175
他大学との単位互換制度について…… 177
放送大学との単位互換の手引き…… 177
放送大学との単位互換協定に関する運用要項…… 178
佐賀大学との単位互換の手引き…… 179
佐賀大学との単位互換協定に関する運用要項…… 179
西九州大学短期大学部との単位互換に関する協定書…… 181
大学コンソーシアム佐賀…… 181
国際交流…… 183

健康栄養学科　共通教育科目

ナンバリング:共通教育科目の分野

A	建学の精神・教育理念に基づく科目	E	語学
B	人文・社会科学	F	健康スポーツ科学
C	自然科学	G	複合領域、その他
D	数理・データサイエンス		

学科目		授業科目	ナンバリング	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	卒業要件
共通教育科目	キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	CE_A1_01	2		◯								22単位以上（内9単位必修）
		SDGs 入門	CE_G1_01	2		○								
		関連職種連携入門	CE_G1_02		2	○								
	人間・文化・科学	心理学入門	CE_B1_01		2		○		○					
		現代社会と倫理	CE_B1_02		2	○		○						
		人間論と現代思想	CE_B1_03		2		○		○					
		文学と言語	CE_B1_04		2	○		○						
		生涯学習論	CE_B1_05		2	○		○						
		肥前の歴史と文化	CE_B1_06		2		○		○					
		脳と認知科学	CE_C1_01		2		○		○					
		法学	CE_B1_07		2	○		○						
		※日本国憲法	CE_B1_08		2		○		○					
		グローバル化と異文化共生	CE_B1_09		2	○		○						
		変わりゆく国際社会を生きる	CE_B1_10		2		○		○					
		多文化社会学	CE_B1_11		2	○		○						
		くらしと経済	CE_B1_12		2	○		○						
		ジェンダー論	CE_B1_13		2		○		○					
		生命のしくみ	CE_C1_02		2	○		○						
		生物と環境	CE_C1_03		2		○		○					
		身近な生活の化学	CE_C1_04		2	○		○						
		統計学の基礎	CE_C1_05		2	○		○						
		身近な世界の物理学	CE_C1_06		2	○		○						
		地球環境科学	CE_C1_07		2		○		○					
		健康スポーツ科学	CE_F1_01		2		○							
		フィットネス・スポーツ	CE_F1_02		1	○								
		ウェルネス・スポーツ	CE_F1_03		1		○							
	外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	CE_E1_01	1		○								
		英語コミュニケーションⅡ	CE_E1_02	1			○							
		SDGs 英語	CE_E2_01		1				○					
		World Issues（世界事情）	CE_G1_03		2	○		○						
		語学研修	CE_E2_04		1	○	○	○	○	○	○	○	○	
		中国語	CE_E1_03		1	○								
		韓国語	CE_E1_04		1		○							「日本語初級」、「日本語中級」及び「日本語上級」は留学生対象科目とする。
		日本語初級	CE_E1_05		1	○								
		日本語中級	CE_E2_05		1		○							
		日本語上級	CE_E3_01		1		○							
	データサイエンスの理解	データサイエンス入門	CE_D1_01	2		○								
		データサイエンス演習	CE_D2_01	1			○							
計				9	55									

※「日本国憲法」は教職課程の必修科目である。
また、教職希望者は、「健康スポーツ科学」、「フィットネス・スポーツ」、「ウェルネス・スポーツ」から2単位以上選択必修。

社会福祉学科　共通教育科目

ナンバリング:共通教育科目の分野

A	建学の精神・教育理念に基づく科目	E	語学
B	人文・社会科学	F	健康スポーツ科学
C	自然科学	G	複合領域、その他
D	数理・データサイエンス		

学科目		授業科目	ナンバリング	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年 前	配当年次 1年 後	配当年次 2年 前	配当年次 2年 後	配当年次 3年 前	配当年次 3年 後	配当年次 4年 前	配当年次 4年 後	卒業要件	資格必修選択区分 社福士	介福士	精保士	高校福祉	レク	障スポ	園芸療法
共通教育科目	キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	CE_A1_01	2		⬭								17単位以上（内９単位必修）							
		あすなろうⅡ 応用（地域課題）	CE_A2_01		2			⬭		⬭		⬭									
		あすなろうⅢ 地域協働（インターンシップ）	CE_A3_01		2			⬭		⬭		⬭									
		SDGs 入門	CE_G1_01	2		○															
		関連職種連携入門	CE_G1_02		2	○															
	人間・文化・科学	心理学入門	CE_B1_01		2		○		○												
		現代社会と倫理	CE_B1_02		2	○		○													
		人間論と現代思想	CE_B1_03		2		○		○							◎					
		文学と言語	CE_B1_04		2	○		○													
		生涯学習論	CE_B1_05		2	○		○													
		肥前の歴史と文化	CE_B1_06		2		○		○												
		脳と認知科学	CE_C1_01		2		○		○												
		法学	CE_B1_07		2	○		○													
		日本国憲法	CE_B1_08		2		○		○									◎			
		グローバル化と異文化共生	CE_B1_09		2	○		○													
		変わりゆく国際社会を生きる	CE_B1_10		2		○		○												
		多文化社会学	CE_B1_11		2	○		○													
		くらしと経済	CE_B1_12		2	○		○													
		ジェンダー論	CE_B1_13		2		○		○												
		生命のしくみ	CE_C1_02		2	○		○													
		生物と環境	CE_C1_03		2		○		○												
		身近な生活の化学	CE_C1_04		2	○		○													
		統計学の基礎	CE_C1_05		2	○		○													
		身近な世界の物理学	CE_C1_06		2	○		○													
		地球環境科学	CE_C1_07		2		○		○												
		健康スポーツ科学	CE_F1_01		2		○							教職希望者は、２単位以上選択必修。				○			
		フィットネス・スポーツ	CE_F1_02		1	○												○	◎		
		ウェルネス・スポーツ	CE_F1_03		1		○											○			
	外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	CE_E1_01	1		○															
		英語コミュニケーションⅡ	CE_E1_02	1			○														
		SDGs 英語	CE_E2_01		1				○												
		World Issues（世界事情）	CE_G1_03		2	○		○													
		語学研修	CE_E2_04		1	○	○	○	○	○	○	○	○								
		中国語	CE_E1_03		1	○															
		韓国語	CE_E1_04		1		○														
		日本語初級	CE_E1_05		1	○								「日本語初級」、「日本語中級」及び「日本語上級」は留学生対象科目とする。							
		日本語中級	CE_E2_05		1		○														
		日本語上級	CE_E3_01		1		○														
	データサイエンスの理解	データサイエンス入門	CE_D1_01	2		○												◎			
		データサイエンス演習	CE_D2_01	1			○														
計				9	59																

ナンバリング:共通教育科目の分野

A	建学の精神・教育理念に基づく科目	E	語学
B	人文・社会科学	F	健康スポーツ科学
C	自然科学	G	複合領域、その他
D	数理・データサイエンス		

スポーツ健康福祉学科　共通教育科目

学科目		授業科目	ナンバリング	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年 前	配当年次 1年 後	配当年次 2年 前	配当年次 2年 後	配当年次 3年 前	配当年次 3年 後	配当年次 4年 前	配当年次 4年 後	卒業要件	資格必修選択区分 教職	健運	障スポ	レク	公スポ	トレ
共通教育科目	キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	CE_A1_01	2		⬭								17単位以上（内９単位必修）						
		SDGs 入門	CE_G1_01	2		○														
		関連職種連携入門	CE_G1_02		2	○														
	人間・文化・科学	心理学入門	CE_B1_01		2		○		○											
		現代社会と倫理	CE_B1_02		2	○		○												
		人間論と現代思想	CE_B1_03		2		○		○											
		文学と言語	CE_B1_04		2	○		○												
		生涯学習論	CE_B1_05		2	○		○							△1					
		肥前の歴史と文化	CE_B1_06		2		○		○											
		脳と認知科学	CE_C1_01		2		○		○											
		法学	CE_B1_07		2	○		○												
		日本国憲法	CE_B1_08		2		○		○						◎					
		グローバル化と異文化共生	CE_B1_09		2	○		○												
		変わりゆく国際社会を生きる	CE_B1_10		2		○		○											
		多文化社会学	CE_B1_11		2	○		○												
		くらしと経済	CE_B1_12		2	○		○												
		ジェンダー論	CE_B1_13		2		○		○											
		生命のしくみ	CE_C1_02		2	○		○												
		生物と環境	CE_C1_03		2		○		○											
		身近な生活の化学	CE_C1_04		2	○		○												
		統計学の基礎	CE_C1_05		2	○		○												
		身近な世界の物理学	CE_C1_06		2	○		○												
		地球環境科学	CE_C1_07		2		○		○											
		健康スポーツ科学	CE_F1_01		2		○							教職希望者は、２単位以上選択必修。						
		フィットネス・スポーツ	CE_F1_02		1	○										◎		◎		◎
		ウェルネス・スポーツ	CE_F1_03		1		○									◎				
	外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	CE_E1_01	1		○									◎					
		英語コミュニケーションⅡ	CE_E1_02	1			○								◎					
		SDGs 英語	CE_E2_01		1				○											
		World Issues（世界事情）	CE_G1_03		2	○		○												
		語学研修	CE_E2_04		1	○	○	○	○	○	○	○	○							
		中国語	CE_E1_03		1	○														
		韓国語	CE_E1_04		1		○													
		日本語初級	CE_E1_05		1	○								「日本語初級」、「日本語中級」及び「日本語上級」は留学生対象科目とする。						
		日本語中級	CE_E2_05		1		○													
		日本語上級	CE_E3_01		1		○													
	データサイエンスの理解	データサイエンス入門	CE_D1_01	2		○									◎					
		データサイエンス演習	CE_D2_01	1			○													
計				9	55															

履修関係

リハビリテーション学科　共通教育科目

ナンバリング:共通教育科目の分野

A	建学の精神・教育理念に基づく科目	E	語学
B	人文・社会科学	F	健康スポーツ科学
C	自然科学	G	複合領域、その他
D	数理・データサイエンス		

学科目		授業科目	ナンバリング	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	卒業要件
共通教育科目	キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	CE_A1_01	2		⬭								17単位以上（内13単位必修）
		SDGs 入門	CE_G1_01	2		○								
		関連職種連携入門	CE_G1_02		2	○								
	人間・文化・科学	心理学入門	CE_B1_01	2			○		○					
		現代社会と倫理	CE_B1_02	2		○		○						
		人間論と現代思想	CE_B1_03		2		○		○					
		文学と言語	CE_B1_04		2	○		○						
		生涯学習論	CE_B1_05		2	○		○						
		肥前の歴史と文化	CE_B1_06		2		○		○					
		脳と認知科学	CE_C1_01		2		○		○					
		法学	CE_B1_07		2	○		○						
		日本国憲法	CE_B1_08		2		○		○					
		グローバル化と異文化共生	CE_B1_09		2	○		○						
		変わりゆく国際社会を生きる	CE_B1_10		2		○		○					
		多文化社会学	CE_B1_11		2	○		○						
		くらしと経済	CE_B1_12		2	○		○						
		ジェンダー論	CE_B1_13		2		○		○					
		生命のしくみ	CE_C1_02		2	○		○						
		生物と環境	CE_C1_03		2		○		○					
		身近な生活の化学	CE_C1_04		2	○		○						
		統計学の基礎	CE_C1_05		2	○		○						
		身近な世界の物理学	CE_C1_06		2	○		○						
		地球環境科学	CE_C1_07		2		○		○					
		健康スポーツ科学	CE_F1_01		2		○							
		フィットネス・スポーツ	CE_F1_02		1	○								
		ウェルネス・スポーツ	CE_F1_03		1		○							
	外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	CE_E1_01	1		○								
		英語コミュニケーションⅡ	CE_E1_02	1			○							
		SDGs 英語	CE_E2_01		1				○					
		World Issues（世界事情）	CE_G1_03		2	○		○						
		医学英語	CE_E2_03		1			○						
		語学研修	CE_E2_04		1	○	○	○	○	○	○	○	○	
		中国語	CE_E1_03		1	○								
		韓国語	CE_E1_04		1		○							
		日本語初級	CE_E1_05		1	○								「日本語初級」、「日本語中級」及び「日本語上級」は留学生対象科目とする。
		日本語中級	CE_E2_05		1		○							
		日本語上級	CE_E3_01		1		○							
	データサイエンスの理解	データサイエンス入門	CE_D1_01	2		○								
		データサイエンス演習	CE_D2_01	1			○							
計				13	52									

子ども学科　共通教育科目

ナンバリング:共通教育科目の分野

A	建学の精神・教育理念に基づく科目	E	語学
B	人文・社会科学	F	健康スポーツ科学
C	自然科学	G	複合領域、その他
D	数理・データサイエンス		

学科目		授業科目	ナンバリング	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	卒業要件
共通教育科目	キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	CE_A1_01	2		⬭								17単位以上（内9単位必修）
		SDGs 入門	CE_G1_01	2		○								
		関連職種連携入門	CE_G1_02		2	○								
	人間・文化・科学	心理学入門	CE_B1_01		2		○		○					
		現代社会と倫理	CE_B1_02		2	○		○						
		人間論と現代思想	CE_B1_03		2		○		○					
		文学と言語	CE_B1_04		2	○		○						
		生涯学習論	CE_B1_05		2	○		○						
		肥前の歴史と文化	CE_B1_06		2		○		○					
		脳と認知科学	CE_C1_01		2		○		○					
		法学	CE_B1_07		2	○		○						
		日本国憲法	CE_B1_08		2		○		○					
		グローバル化と異文化共生	CE_B1_09		2	○		○						
		変わりゆく国際社会を生きる	CE_B1_10		2		○		○					
		多文化社会学	CE_B1_11		2	○		○						
		くらしと経済	CE_B1_12		2	○		○						
		ジェンダー論	CE_B1_13		2		○		○					
		生命のしくみ	CE_C1_02		2	○		○						
		生物と環境	CE_C1_03		2		○		○					
		身近な生活の化学	CE_C1_04		2	○		○						
		統計学の基礎	CE_C1_05		2	○		○						
		身近な世界の物理学	CE_C1_06		2	○		○						
		地球環境科学	CE_C1_07		2		○		○					
		健康スポーツ科学	CE_F1_01		2		○							
		フィットネス・スポーツ	CE_F1_02		1	○								
		ウェルネス・スポーツ	CE_F1_03		1		○							
	外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	CE_E1_01	1		○								
		英語コミュニケーションⅡ	CE_E1_02	1			○							
		SDGs 英語	CE_E2_01		1				○					
		World Issues（世界事情）	CE_G1_03		2	○		○						
		語学研修	CE_E2_04		1	○	○	○	○	○	○	○	○	
		中国語	CE_E1_03		1	○								
		韓国語	CE_E1_04		1		○							
		日本語初級	CE_E1_05		1	○								「日本語初級」、「日本語中級」及び「日本語上級」は留学生対象科目とする。
		日本語中級	CE_E2_05		1		○							
		日本語上級	CE_E3_01		1		○							
	データサイエンスの理解	データサイエンス入門	CE_D1_01	2		○								
		データサイエンス演習	CE_D2_01	1			○							
計				9	55									

※1　「日本国憲法」・「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」・「データサイエンス入門」・「データサイエンス演習」は教職課程の必修科目である。
※2　「生涯学習論」は、幼稚園教諭一種免許状、小学科教諭一種免許状取得のための選択科目である。
※3　教員免許状取得のためには、「健康スポーツ科学」・「フィットネス・スポーツ」・「ウェルネス・スポーツ」の中から、2単位の修得が必要である。
※4　保育士資格取得のためには、「健康スポーツ科学」が必修科目であり、「フィットネス・スポーツ」または「ウェルネス・スポーツ」どちらか一方の修得が必要である。

心理カウンセリング学科　共通教育科目

ナンバリング：共通教育科目の分野

A	建学の精神・教育理念に基づく科目	E	語学
B	人文・社会科学	F	健康スポーツ科学
C	自然科学	G	複合領域、その他
D	数理・データサイエンス		

学科目		授業科目	ナンバリング	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	卒業要件
共通教育科目	キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	CE_A1_01	2		◯								17単位以上（内9単位必修）
		SDGs 入門	CE_G1_01	2		○								
		関連職種連携入門	CE_G1_02		2	○								
	人間・文化・科学	心理学入門	CE_B1_01		2		○		○					
		現代社会と倫理	CE_B1_02		2	○		○						
		人間論と現代思想	CE_B1_03		2		○		○					
		文学と言語	CE_B1_04		2	○		○						
		生涯学習論	CE_B1_05		2	○		○						
		肥前の歴史と文化	CE_B1_06		2		○		○					
		脳と認知科学	CE_C1_01		2		○		○					
		法学	CE_B1_07		2	○		○						
		日本国憲法	CE_B1_08		2		○		○					
		グローバル化と異文化共生	CE_B1_09		2	○		○						
		変わりゆく国際社会を生きる	CE_B1_10		2		○		○					
		多文化社会学	CE_B1_11		2	○		○						
		くらしと経済	CE_B1_12		2	○		○						
		ジェンダー論	CE_B1_13		2		○		○					
		生命のしくみ	CE_C1_02		2	○		○						
		生物と環境	CE_C1_03		2		○		○					
		身近な生活の化学	CE_C1_04		2	○		○						
		統計学の基礎	CE_C1_05		2	○		○						
		身近な世界の物理学	CE_C1_06		2	○		○						
		地球環境科学	CE_C1_07		2		○		○					
		健康スポーツ科学	CE_F1_01		2		○							
		フィットネス・スポーツ	CE_F1_02		1	○								
		ウェルネス・スポーツ	CE_F1_03		1		○							
	外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	CE_E1_01	1		○								
		英語コミュニケーションⅡ	CE_E1_02	1			○							
		SDGs 英語	CE_E2_01		1				○					
		World Issues（世界事情）	CE_G1_03		2	○		○						
		語学研修	CE_E2_04		1	○	○	○	○	○	○	○	○	
		中国語	CE_E1_03		1	○								
		韓国語	CE_E1_04		1		○							
		日本語初級	CE_E1_05		1	○								「日本語初級」、「日本語中級」及び「日本語上級」は留学生対象科目とする。
		日本語中級	CE_E2_05		1		○							
		日本語上級	CE_E3_01		1		○							
	データサイエンスの理解	データサイエンス入門	CE_D1_01	2		○								
		データサイエンス演習	CE_D2_01	1			○							
計				9	55									

看護学科　共通教育科目

ナンバリング:共通教育科目の分野

A	建学の精神・教育理念に基づく科目	E	語学
B	人文・社会科学	F	健康スポーツ科学
C	自然科学	G	複合領域、その他
D	数理・データサイエンス		

学科目		授業科目	ナンバリング	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年 前	配当年次 1年 後	配当年次 2年 前	配当年次 2年 後	配当年次 3年 前	配当年次 3年 後	配当年次 4年 前	配当年次 4年 後	卒業要件	資格必修選択区分 看護師	保健師	養一種
共通教育科目	キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	CE_A1_01	2		◯								17単位以上（内11単位必修）			
		SDGs 入門	CE_G1_01	2		○											
		関連職種連携入門	CE_G1_02		2	○											
	人間・文化・科学	心理学入門	CE_B1_01	2			○								◎		
		現代社会と倫理	CE_B1_02		2	○											
		人間論と現代思想	CE_B1_03		2		○										
		文学と言語	CE_B1_04		2	○											
		生涯学習論	CE_B1_05		2	○											○
		肥前の歴史と文化	CE_B1_06		2		○										
		脳と認知科学	CE_C1_01		2		○										
		法学	CE_B1_07		2	○											
		日本国憲法	CE_B1_08		2		○									※	◎
		グローバル化と異文化共生	CE_B1_09		2	○											
		変わりゆく国際社会を生きる	CE_B1_10		2		○										
		多文化社会学	CE_B1_11		2	○											
		くらしと経済	CE_B1_12		2	○											
		ジェンダー論	CE_B1_13		2		○										
		生命のしくみ	CE_C1_02		2	○											
		生物と環境	CE_C1_03		2		○										
		身近な生活の化学	CE_C1_04		2	○											
		統計学の基礎	CE_C1_05		2	○											
		身近な世界の物理学	CE_C1_06		2	○											
		地球環境科学	CE_C1_07		2		○										
		健康スポーツ科学	CE_F1_01		2		○							教職希望者は、２単位以上選択必修。		※	○
		フィットネス・スポーツ	CE_F1_02		1	○										※	○
		ウェルネス・スポーツ	CE_F1_03		1		○									※	○
	外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	CE_E1_01	1		○										※	◎
		英語コミュニケーションⅡ	CE_E1_02	1			○									※	◎
		SDGs 英語	CE_E2_01		1				○								
		World Issues（世界事情）	CE_G1_03		2	○											
		医療英語	CE_E2_02		1			○									
		語学研修	CE_E2_04		1	○											
		中国語	CE_E1_03		1	○											
		韓国語	CE_E1_04		1		○										
		日本語初級	CE_E1_05		1					○				「日本語初級」、「日本語中級」及び「日本語上級」は留学生対象科目とする。			
		日本語中級	CE_E2_05		1						○						
		日本語上級	CE_E3_01		1						○						
	データサイエンスの理解	データサイエンス入門	CE_D1_01	2		○										※	◎
		データサイエンス演習	CE_D2_01	1			○									※	◎
計				11	54												

注 1）◎印科目は資格必修科目を示し、○印は資格選択必修科目を示す。
注 2）養護教諭二種免許取得を目指す場合は、保健師区分にある※印（教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められた科目）の科目履修が必要です。その上で保健師免許を取得後、申請により免許を取得できます。
注 3）第一種衛生管理者免許取得を目指す場合は、保健師免許を取得し、申請により第一種衛生管理者免許を取得できます。
注 4）配当年次については、変更となる場合もあります。

西九州大学教務委員会規程

（目的）

第１条　西九州大学における学生の教育に関する重要事項を審議し、その適正かつ円滑な実施を図るため、西九州大学教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号の事項を審議する。

（１）教育課程の編成、改廃に関する事項

（２）授業計画（講義、演習、実験、実習、校外実習等）の立案に関する事項

（３）試験に関する事項

（４）卒業及び学位の授与に関する事項

（５）教育施設及び備品に関する事項

（６）その他教務に関し必要な事項

（構成）

第３条　委員会は、次の各号に定める者を以って構成する。

（１）副学長

（２）教務部長

（３）教務部副部長

（４）各学部教務委員会から選出された専任教員各学科２人とし、うち１人は教授とする。

（５）西九州大学共通教育運営委員会から選出された専任教員各学科１人

（６）事務局長

（７）その他、学長が特に必要と認めた者

（委員の任期）

第４条　前条第４号から５号及び第7号の委員の任期は、１年とする。ただし、再任することができる。

（委員長）

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置く。

２　委員長は副学長とし、委員会の議長となる。

３　副委員長は教務部長とし、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

４　委員長及び副委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が委員長の職務を代行する。

（会議の開催及び議決）

第６条　委員会は、委員長が必要と認めたとき、又は過半数の委員から要請があったときに、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の３分の２以上の出席がなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

４　委員会は、自己点検・評価に向けて、定期的に在学生の代表者もしくは学外者が参画する会議を企画し、直接意見を聴取する場を設けることができる。

５　委員長は、必要と認めるときは委員以外の者の出席を求め意見等を聴取することができる。

（専門委員会）

第７条　委員会に、専門の事項を調査検討させるため、必要に応じ、専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会に関する必要な事項は、別に定める。

（学部長会議等への報告、承認）

第８条　教授会の審議事項に係るものについては、委員会の審議結果を関係学部の教授会に報告し、その承認を得なければならない。

２　学部長会議の審議事項に係るものについては、委員会の審議結果を関係学部の教授会及び学部長会議に報告し、その承認を得なければならない。

（事務局）

第９条　委員会に関する事務は、教務課において処理する。

（雑則）

第１０条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

この規程は、昭和５３年７月６日から施行する。

附　則

この規程は、平成４年１月１日から施行する。

附　則（平成１１年３月１６日）

この規程は、平成１１年４月１日から施行する。

附　則（平成１１年１１月２５日）

この規程は、平成１１年１１月２５日から施行する。

附　則（平成１８年１月１９日）

この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則（平成１９年２月２２日）

１　この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

２　リハビリテーション学部から選出される委員については、平成２２年３月３１日までの間、この規程による改正後の第３条第２号に規定する「各学部から選出された各４人の専任教員」とあるのは、「各学部から選出された各４人以内の専任教員」と読み替えるものとする。

附　則（平成２１年２月２６日）

１　この規程は、平成２１年４月１日から施行する。

２　平成１９年２月２２日付け、附則第２号は、平成２１年３月３１日付けで廃止する。

附　則（平成２４年５月１７日）

この規程は、平成２４年５月１７日から施行し、平成２４年４月１日から適用する。

附　則（平成２６年３月６日）

この規程は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則（平成２７年２月２５日）

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則（平成２８年６月１６日）

この規程は、平成２８年６月１６日から施行し、平成２８年４月１日から適用する。

附　則（令和元年５月２３日）

この規程は、令和元年５月２３日から施行する。

附　則（令和４年３月３日）

この規程は、令和４年３月３日から施行する。

西九州大学

数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム検討部会要項

（目的）

第１　西九州大学における数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（以下「プログラム」という。）を全学的に普及させるために授業内容の検討を行い、受講学生の成績評価の方法、および授業プログラムの改善について継続的に検討するため、西九州大学教務委員会との連携のもと、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム検討部会（以下「部会」という。）を設置する。

（構成）

第２　部会は、次の各号に定める者を以って構成する。

（１）教務部副部長（大学担当）

（２）共通教育科目「データサイエンス入門」担当専任教員

（３）各学科から選出された専任教員各１人

（部会長）

第３　部会に部会長を置き、部会長は教務部副部長とする。

２　部会長は部会の議長となる。

（実施）

第４　部会は、プログラムに係る調査、検討を行い、西九州大学教務委員会においてプログラムの改善を図る。

（事務局）

第５　部会に関する事務は、教務課において処理する。

（その他）

第６　この要項に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会が別に定める。

附　則

この要項は、令和４年７月２８日から施行する。

西九州大学教務委員会規程

（目的）

第１条　西九州大学における学生の教育に関する重要事項を審議し、その適正かつ円滑な実施を図るため、西九州大学教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号の事項を審議する。

（１）教育課程の編成、改廃に関する事項

（２）授業計画（講義、演習、実験、実習、校外実習等）の立案に関する事項

（３）試験に関する事項

（４）卒業及び学位の授与に関する事項

（５）教育施設及び備品に関する事項

（６）その他教務に関し必要な事項

（構成）

第３条　委員会は、次の各号に定める者を以って構成する。

（１）副学長

（２）教務部長

（３）教務部副部長

（４）各学部教務委員会から選出された専任教員各学科２人とし、うち１人は教授とする。

（５）西九州大学共通教育運営委員会から選出された専任教員各学科１人

（６）事務局長

（７）その他、学長が特に必要と認めた者

（委員の任期）

第４条　前条第４号から５号及び第7号の委員の任期は、１年とする。ただし、再任することができる。

（委員長）

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置く。

２　委員長は副学長とし、委員会の議長となる。

３　副委員長は教務部長とし、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

４　委員長及び副委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が委員長の職務を代行する。

（会議の開催及び議決）

第６条　委員会は、委員長が必要と認めたとき、又は過半数の委員から要請があったときに、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の３分の２以上の出席がなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

４　委員会は、自己点検・評価に向けて、定期的に在学生の代表者もしくは学外者が参画する会議を企画し、直接意見を聴取する場を設けることができる。

５　委員長は、必要と認めるときは委員以外の者の出席を求め意見等を聴取することができる。

（専門委員会）

第７条　委員会に、専門の事項を調査検討させるため、必要に応じ、専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会に関する必要な事項は、別に定める。

（学部長会議等への報告、承認）

第８条　教授会の審議事項に係るものについては、委員会の審議結果を関係学部の教授会に報告し、その承認を得なければならない。

２　学部長会議の審議事項に係るものについては、委員会の審議結果を関係学部の教授会及び学部長会議に報告し、その承認を得なければならない。

（事務局）

第９条　委員会に関する事務は、教務課において処理する。

（雑則）

第１０条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

この規程は、昭和５３年７月６日から施行する。

附　則

この規程は、平成４年１月１日から施行する。

附　則（平成１１年３月１６日）

この規程は、平成１１年４月１日から施行する。

附　則（平成１１年１１月２５日）

この規程は、平成１１年１１月２５日から施行する。

附　則（平成１８年１月１９日）

この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則（平成１９年２月２２日）

１　この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

２　リハビリテーション学部から選出される委員については、平成２２年３月３１日までの間、この規程による改正後の第３条第２号に規定する「各学部から選出された各４人の専任教員」とあるのは、「各学部から選出された各４人以内の専任教員」と読み替えるものとする。

附　則（平成２１年２月２６日）

１　この規程は、平成２１年４月１日から施行する。

２　平成１９年２月２２日付け、附則第２号は、平成２１年３月３１日付けで廃止する。

附　則（平成２４年５月１７日）

この規程は、平成２４年５月１７日から施行し、平成２４年４月１日から適用する。

附　則（平成２６年３月６日）

この規程は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則（平成２７年２月２５日）

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則（平成２８年６月１６日）

この規程は、平成２８年６月１６日から施行し、平成２８年４月１日から適用する。

附　則（令和元年５月２３日）

この規程は、令和元年５月２３日から施行する。

附　則（令和４年３月３日）

この規程は、令和４年３月３日から施行する。

西九州大学

数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム検討部会要項

（目的）

第１　西九州大学における数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（以下「プログラム」という。）を全学的に普及させるために授業内容の検討を行い、受講学生の成績評価の方法、および授業プログラムの改善について継続的に検討するため、西九州大学教務委員会との連携のもと、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム検討部会（以下「部会」という。）を設置する。

（構成）

第２　部会は、次の各号に定める者を以って構成する。

（１）教務部副部長（大学担当）

（２）共通教育科目「データサイエンス入門」担当専任教員

（３）各学科から選出された専任教員各１人

（部会長）

第３　部会に部会長を置き、部会長は教務部副部長とする。

２　部会長は部会の議長となる。

（実施）

第４　部会は、プログラムに係る調査、検討を行い、西九州大学教務委員会においてプログラムの改善を図る。

（事務局）

第５　部会に関する事務は、教務課において処理する。

（その他）

第６　この要項に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会が別に定める。

附　則

この要項は、令和４年７月２８日から施行する。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

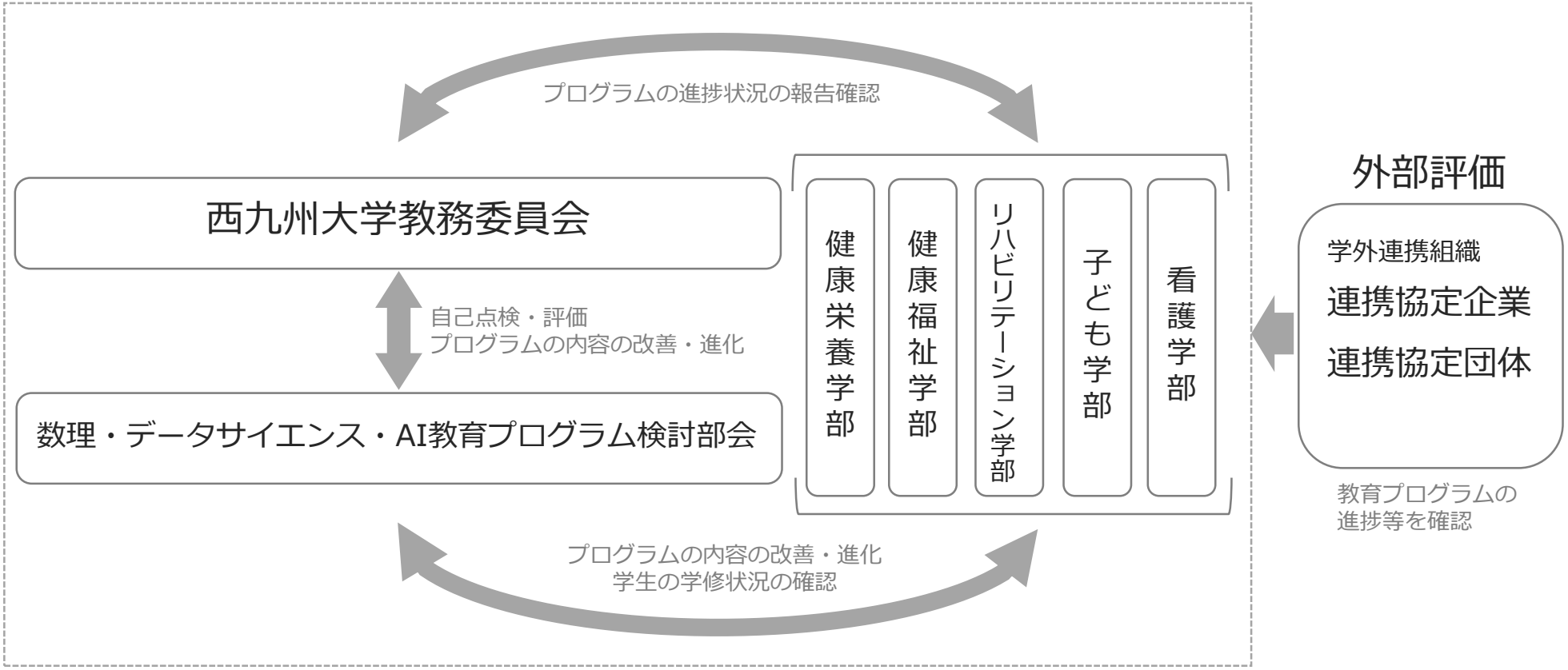
全学共通開講「データサイエンスの理解」

全学必修科目

データサイエンス入門 （1年次、2単位）	＋	データサイエンス演習 （1年次、１単位）

日常生活や社会の課題を解決する有用なツールとして、基礎的な数理・データサイエンス・AIを活用できる人材を育成します。

- 数理・データサイエンス・ＡＩの基礎力を身に付けます。
- 社会でAIやデータサイエンスがどのように利活用されているかを学びます。
- AI・データサイエンスの利点と注意点を学びます。
- データを可視化し、分析して、正しく読み取る能力を身に付けます。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

「データサイエンスの理解」点検・評価組織図